# 波間の休息

老老介護問題の緩和となる建築アプローチ

弓塲 教行　環境・プロダクトデザインコース　藤田研究室

## 製作背景

日本では今後さらなる高齢化が進んでいくことから、介護福祉業界では老老介護が問題とされている。老老介護とは、65 歳以上の高齢者が 65 歳以上の高齢者を介護することを指す。身体的・精神的な負担が大きい介護を高齢者が担うのは好ましくなく、共倒れや介護虐待などの重大な問題に発展する危険性がある。

## 計画敷地の概要

敷地は、和歌山県白浜町の銀座通りを含む道路に沿った場所である。観光資源が豊富な町だが、その一方で高齢化が進んでいる。 (図 1)

計画地の南北には住宅街が、東西には浜と湾がある。道路は山に挟まれており、道幅は狭く歩道もないので、高齢者が安心して歩ける道が必要である。

| | 白浜町 | 和歌山市 | 和歌山県 | 全国平均 |
|---|---|---|---|---|
| 観光客総数(千人) | 3,595 | 6,424 | 33,399 | 40,436 |
| 宿泊客数(千人) | 2,092 | 838 | 5,686 | 4,300 |
| 年少(0~14)人口割合(%) | 10.6 | 12.3 | 12.1 | 12.6 |
| 生産年齢(15~64)人口割合(%) | 52.4 | 58.5 | 57.0 | 60.7 |
| 老年(65~)人口割合(%) | 37.0 | 29.3 | 30.9 | 26.6 |

**図 1** 平成 27 年 観光客数と年齢別人口割合の比較

## ソフト的アプローチ

介護者の負担を減らすために、「ワーキングレスパイトケア」をソフト的アプローチの鍵とする。ワーキングレスパイトケアでは、介護者は介護アシスタントとして働き、その間つきっきりの介護から離れることができる。また、介護スキルの向上と経済支援のほかに、孤独な介護から遠ざける。

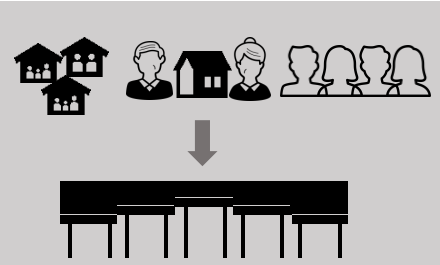
## ハード的アプローチ

移動を促すために、道路に沿って連続する空間を提案する。この空間を日常的に歩行することで、高齢者(介護者と要介護者)の生活レベル向上を図る。道なりに勾配が変わる屋根は、外への開き度合いを変化させ、屋内に 2 階レベルの空間を作り出す。

拠点は 4 つに分け、各拠点にメインとなる活動を割り当てた。また、拠点には他の拠点の機能の一部を取り入れている。拠点同士の関わり合いが生まれ、拠点間移動のきっかけになる。

要介護者から目が離せず、子供世帯も遠方にいることから、介護者が家から外出できなくなっていく。

自治会単位の互助では老老介護のケアをすることは難しく、スケールメリットを活かした拠点を計画する必要がある。



本案は、老老介護者をはじめとする地域の集約した活動拠点となり、ワーキングレスパイトケアを行う。

**図 2** ダイアグラム

**図 3** 計画敷地全体図

**図 4** 食拠点立面図

**図 5** 食拠点平面図

模型写真

**図 6** 屋根勾配

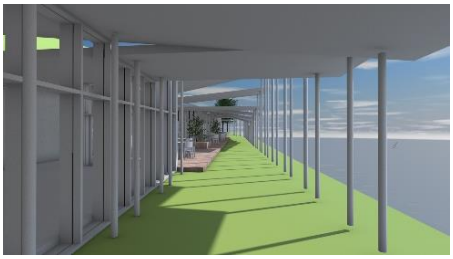


**図 7** 支柱による連続性

**図 8** アプローチと休憩のデッキ

## まとめ

高齢化の進行により、老老介護問題は今後ますます深刻化する。本研究は、これを少しでも緩和するために人的ネットワークを構築し、負担を分散・解消する提案である。ワーキングレスパイトケアによる負担軽減と人的ネットワークの構築をねらう本案が、老老介護問題に対するひとつの切り口となれれば嬉しく思う。

---

出典 図 1: 和歌山県 HP(https://www.pref.wakayama.lg.jp/)、国土交通省 HP(http://www.mlit.go.jp/)
統計ラボ(https://ecitizen.jp/)、e-stat(https://www.e-stat.go.jp/) のデータを元に作成。